

祝 百寿 にはち 大下仁八さんが100歳を迎える

6月3日、大下仁八さん（元木）が100歳の誕生日を迎え、鈴木重男町長が高砂荘で祝い金と花束を贈呈しました。

大下さんは大正10年生まれ。アスパラガス栽培を主に農業を営みながら、妻のサトさんと共に4人の子どもを育てました。仕事熱心で、令和元年に高砂荘に入所する直前まで畑仕事を続けていたそうです。

長男の幸男さんは「普段は口数は少ないが、お酒が入ると陽気になって、せりふ付きで演歌を歌ってみんなを笑わせていた」とかつての父の様子を振り返ります。大下さんの歌好きは現在も変わらず、特に島倉千代子の「すみだ川」がお気に入り、今も時々口ずさむことがあるそうです。

鈴木町長は「以前、大下さんの素晴らしい芸を見

せてもらったことがあります。また披露してください」とますますの長寿を祝し、大下さんは「100歳になって嬉しいです」と笑顔を見せていました。



町長から花束を受け取り笑顔の大下さんと妻のサトさん

土谷奏太かなたさんが聖火をつなぐ 東京2020オリンピック聖火リレー

東京2020オリンピック聖火リレーが、6月16日から18日の3日間、県内各地で開催されました。

区間最終ランナーは本町に縁のある俳優の辰巳琢郎さんが務め、町内小中学生10人がサポートランナーとして共に走りました。また、沼宮内小学校に設けられたミニセレブレーション会場では、葛巻高校郷土芸能部が神楽を披露し、会場を盛り上げました。

児童生徒たちは聖火リレーを通じて東京オリンピックに触れ、それぞれに貴重な思い出を胸に刻んだようでした。



トーチを掲げ笑顔で手を振りながら走る奏太さん



観客が見守る中第2走者に聖火をつなぐ奏太さん



迫力ある神楽を披露した葛巻高校郷土芸能部



聖火ランナーの辰巳琢郎さん（後列左から2番目）とサポートランナーの皆さん（青いTシャツが本町の小中学生）

■葛巻町サポートランナー（敬称略）

近藤晴希（葛巻小6年）、竹花颯真（同6年）、千葉烈士（小屋瀬小6年）、村上心夏（江刈小5年）、山岸梨来（五日市小6年）、小向大翔（葛巻中3年）、見澤莉玖（同2年）、南館杏（小屋瀬中2年）、遠藤礼二郎（江刈中2年）、栗村脩斗（同）

感染症対策を講じてイベント開催 まちなかに久々のにぎわい

手しごと作家集い 買い物客らと交流

6月12日と13日、町内外から約50人の手しごと作家が集い、新町地区でくずまきクラフト市2021みなづきが開催されました。

このイベントは、手づくりの作品販売を通じた交流や、まちなかににぎわいをつくらうと、くずまきクラフト市実行委員会（南館副江委員長）が主催しました。訪れた買い物客は、まちなかを歩きまわりながら個性豊かな作品を買



買い物客でにぎわうクラフト市の会場

い求め、フェルトの小物作品を販売した向井真里さん（浦子内）は「贈り物にすると話して作品を買ってくれる方もいてうれしい」と話し、買い物客との交流を楽しんでいました。

南館委員長は「受付を3カ所設け、来場者全員の記名と検温、消毒などで感染症対策を講じました。出店者にも各種対策に協力してもらい、ボランティアにも支えられ、笑顔があふれた2日間でした」とコロナ禍でのイベント実施に手応えを感じた様子でした。

新緑まつり盛會に 歌謡ショーを満喫

まちなか活性化協議会が主催するまちなか新緑まつりは6月20日、JRバス葛巻駅構内で開催されました。

主催者の吉澤信光会長は「久しぶりのまちなかイベントを、皆さんで楽しんでください」と来場者を歓迎し、觸澤義美副町長は「町は『歩き



拍手を送りながら歌謡ショーを楽しむ来場者

まわりたくなるまちなかのシンボルとして浦子内に木橋の整備を進めています。木材利用の多様性を全国にPRしながらまちなかへ誘客し、イベントとの相乗効果でにぎわいを創出していきます」とあいさつしました。

会場では、葛巻高校郷土芸能部の神楽や、歌手の堀トオルさん、小西礼子さんの歌謡ショーなどが行われ、訪れた松村ハルエさん（平船）は、「まちなかのイベントは久しぶりなので、楽しみにして来ました。歌謡ショーはもちろん、屋台や抽選会も楽しい」と、イベントを満喫していました。